

LME銅相場新規の大型プラスチック材料は期待薄

◆国内の自動車関連の動向にも懸念

・橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

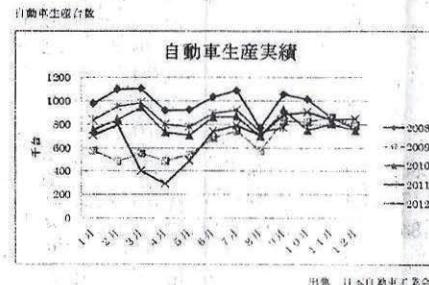
【概況】十月前半は米ISM製造業景況感指
数が四ヶ月ぶりに五〇を上回った事や、失業
保険申請件数が三三万九千件と予測の三六万
五千件を上回ったものの、世界銀行が世界經
済成長見通しを三・二%増と引き下げた事、
米格付け会社フィッチがユーロ諸国の格下げ
をおこなった事を嫌気、LME銅相場は八、
一七九(セツル)と約二〇ドル下落しての前
半締めとなつた。

後半も下落の流れを止める事が出来ず、十
月の米住宅指数が六年四ヶ月ぶりの高水準
だつたことや、九月の米住宅着工件数が一五
%増(前月比)の八七万二千件と四年半ぶり
の高水準だつたものの、注目のEUI会合でス
ペイン救済に関して具体的案が出なかつたこ
と、欧州のPMI指数が四五・三と予測を下
回つた事を嫌気し暴落、十一月二日現在、前
半締めから三八六ドル下落の七、八一二ド
ル、建値六六万円のスタートとなつた。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台
数は前月比五・二%増の七七万三、九九〇台
であつた。

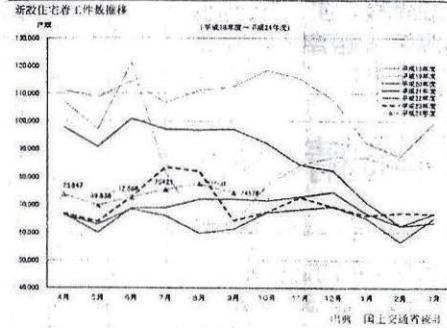
	7月	8月	9月
生産台数	92万2679台	73万5999台	77万3950台
前月比	+3.3%	-20.2%	+5.2%
昨年対比	+16.7%	+4.5%	-12.4%



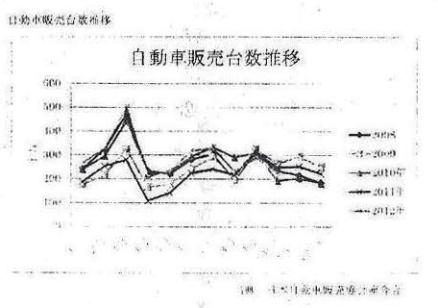
出典：日本自動車工業会

【前月の経済指標】
◆新設住宅着工戸数
国土交通省によると、新設住宅着工戸数は
前月比(季節調整済み)二・五%増(前年比
一五・五%増)の七万四、二七六戸であつた。

	7月	8月	9月
新設住宅着工戸数	7万5421戸	7万7600戸	7万4176戸
季節調整 前月比	+3.9%	-2.1%	-2.5%
同年対比	-9.6%	-5.5%	+15.6%



	8月	9月	10月
販売台数	23万2372台	23万8478台	22万5543台
前月比	+29.3%	+24.1%	-21.8%
昨年対比	+7.3%	-8.1%	-9%



出典：主たる自動車販売事業者

◆自動車販売台数

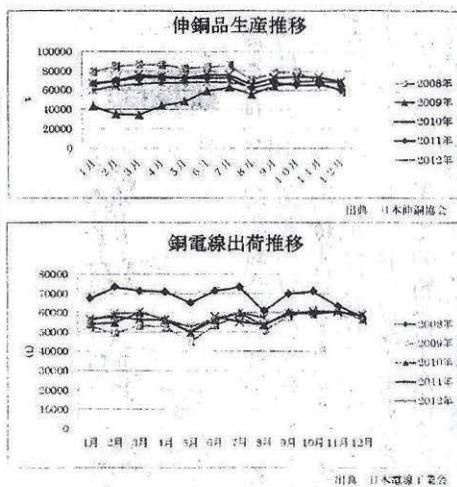
日本自動車販売協会連合会によると、自動
車販売台数(軽除く)は前月比二一・八%減
の二二万五、五四三台(前年比九%減)。

(六面に続く)

◆貿易関連指標

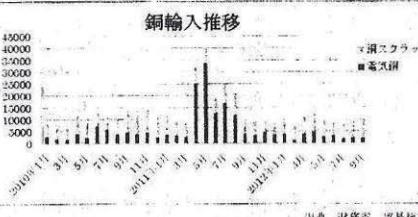
財務省貿易統計によると、輸出は前月比で
電気銅が五・五%増の四万五〇七五t、ス
クラップが二四・七%増の二万七、八三三t。
輸入は電気銅が前月比四%減の二、三五六
t、スクラップ一〇・〇%増の七、四四三t。

(四面より続く)

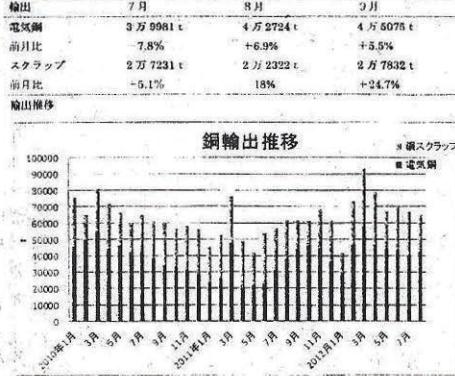


【前月の国内指標】
 日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比九・六%増の六万三、七〇t(昨年対比六・九%減)。
 日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比二・七%増の五万七、二〇〇tであつた(昨年対比三・二%減)。

【前月の銅輸入推移】



	7月	8月	9月
輸入			
電気銅	2106 t	2453 t	2356 t
前月比	-35.3%	+16.3%	-4%
スクラップ	5850 t	6764 t	7443 t
前月比	+5.2%	+15.6%	+10.0%



	7月	8月	9月
輸出			
電気銅	3万9981 t	4万2724 t	4万5076 t
前月比	+7.8%	+6.9%	+5.5%
スクラップ	2万7231 t	2万2322 t	2万7832 t
前月比	-5.1%	-18%	+24.7%

【見通し】
 今月は自動車生産、販売共に前年比でついてほぼ二桁悪化、住宅関連は先月の前年比悪化からは一五・五%増と回復するも、季節調整済み前月比ではほぼ横ばい基調。
 欧州懸念は結果的にスペインが救済を申し出るなど一步前進したが、欧州会合でスペイン救済に関しての具体案ができないなど一致団結しておらず、まだまだ回復準備への道は険しい。
 自動車生産は前年比一二・四%減の七七万台、九九〇台と一年ぶりの前年割れ、レポート上でグラフがある二〇〇八年から最低水準。
 また国内自動車販売台数が二三万五、五四台で前年比九%減と悪化。
 自動車関連が少ない伸銅品生産量は前月比九・六%増の六万三、七〇三t、昨年対比では一月比六・九%減と一六ヶ月連続前年割れ。
 銅電線出荷量は、前月比二・七%増の五万七、二〇〇t、昨年対比三・三%減と五ヶ月ぶり減少へ。自動販売の悪化を受けて今後を悪化へ。
 新設住宅着工数は季節調整前月比二・五%減少の七万四、一七六戸ながらも、前年比では一月比五・五%増と大幅増加、今後の復興需要次第。
 輸出に関しては、電気銅輸出が前月比五・五%増の四万五、〇七五tと増加。
 銅スクラップはほぼ二五%増の二万七、八三二tとこちらは大幅上昇した。
 輸入は電気銅が四%減の二、三五六t、スクランプは一〇・〇%増の七、四四三tと、電気銅については内需の悪化を受けて減少。
 銅需給に関しては、先月から自動車関連の需要が急激に悪化、自動車販売台数も九%減と大幅減少、生産台数でも二・四%減と急減している。また更なる悪化の可能性がある。
 ただ住宅着工数のみが前月比(季節調整済み)一・五%減、昨年比一五・五%増の七月、一七六戸と何とか横ばい基調で推移。
 その他の弱電業界も引き続き悪化しており、伸銅品生産に関しては一六ヶ月連続悪化の六・九%減(前年比)。

銅需要に関しては、中国経済の伸び悩み(輸出の約半分が欧洲向け)が台頭。また、日中領土問題などによる中国向け輸出の停滞や、長期化する円高による中国経済の伸び悩み(輸出の約半分が欧洲向け)が台頭。また、日中領土問題などによる先行き不安からメーカーは買い気なし。
 銅価格に関しては、米国 QE3などのプラス材料はすべて出尽くし感があり、新規大型プラス材料は望めず、上値は直近高値の八三〇〇ドルが限界。

下値は八、〇〇〇ドルをあつさり割り込み、七八、八〇〇ドル近辺を推移している事から、欧洲のゴタゴタが加われば更なる下振れが考えられ、五〇〇ドルも視野に入るのではないか。
 銅建値に関しては六三・六九万円程度と予測。